

No.1
私が先日の防災訓練を体験して
感じた事は、意識の低さでした。
近年、災害等が増えている、首都直下
地震もいつくるか分からないなかで
心のどこかで自分自身には関係無い。
どうせ地震なんて来ない。と思ってました。
しかし、災害は突然やってくるもので、
その為には、日頃から順備や対策等を
しっかりしておかなければいけない!!
と思える様になりました。
食料や水分の確保も大事かおしれ
ません。しかし、家の倒壊や近所で
川の氾濫が起きてしまえば、避難
する際に、邪魔になっしまい逆に
命の危険になるかおしれない事も
知りました。

まず、第1に考えるのは自分や家族の身の安全を確保する事が災害時には大事なんだと思いました。

そして、万が一離れ離れになってしまった時には、安全な避難場所を予め決めておく必要があり、非常時に役に立つ伝言ダイヤル等も活用し無事だと伝える手段は家族や友人で共有出来る様、約束しおいても損は無いと感じました。

当たり前のように朝が来て、仕事をして食事をし毎日眠れる事に感謝をしつつ、同じ様な日が来ると言う事は止める様にします。

NO3

いつ、何事にやって来るかわからない
自然災害に対して、もしかしたら…
と言う気持ちで1日1日を過ごして
行こうと思えます。

この様な貴重な体験をさせて
貰いありがとうございました。

今後、自分が危険を発信して行け
ればと思っています。

令和2年 2月12日

北支部

川口 幸太

2/2 子エリス

有明そなエリス防災体験学習を終えて

今回防災体験をしてきました。

「東京直下72h TOUR」学習を行いマブ=チュードク3の地震にあたり設定でした。中に入った時から真暗で建物などが倒壊していき地震さながらでした。

このツアーにはタブレットを使用し1ヶ所ずつ問題を解きながら進んでいくシステムでした。

本当の地震ではないですが周りの倒壊した景色を見ると大人でも息を飲む光景なので子供には少し刺激が強いかもかもしれません。

その他に充実した内容の資料や映像を見ることができたり避難生活に必要な物が展示されていました。とても貴重な体験だったので今度は家族にも体験させてあげたいと思いました。

その他にバーベキューも行われましたが他の支部の方との交流がより深まって楽しく過ごすことができました。とても良い体験学習でした。

北支部 川辺 広行

合同青年部旗南王

2/2 北斐那
長坂 裕二

今まで 実際に大地震がもし起こったらどうしたら良いのか、何となくしか
考えていたからた急、ああいう風に疑似体験をお事とアニメを見て、
改めて いろいろと考えさせられました。

ま、何を準備しておいて実際に事が起こったら最初の72時間をどう
過ごすか、家族と共に いろいろと話をして、とて貴重な体験と出来た。

また、こういう体験を少しでも多くの方が経験して、いろいろと考える行
けば、実際に起こった時の行動も少し違うのかなと思われました。

2月2日合同青年部旗開きに初めて参加させて
頂きました。

そこで防災体験を経験する機会がありました。

今回の体験は防災に対する知識と近代的な
手法で学びました。

とてもわかりやすく、年輩の方や小さなお子さんにも

わかりやすいと思われました。

防災について改めて学びたいと思います。また、

このような機会が月次ならば是非参加させて頂き
たいと思います。

令和2年2月2日

吉野反正

令和2年2月2日

第一回 合同青年部講演会 防災体験

北支部 澤田 亨

- 先日江戸東京での防災体験に参加しました。
- その日は、タブレットを使い、クイズ形式で答えながら先に進んで行くと言う事でした。
- その為 冷静に考える、時間があったので、スムーズに進む事が出来ました。と考えると、実際、現実には、あんな防災道具など、備えていたのだろうか？
- 朝日 家に帰ってから、考え直してみると、特に、準備、備えていませんでした。
- 今回の防災体験で、学んだ事は、やはり行くことだと思います。
- 防災道具の準備、身の周りの安全、避難所の場所をしっかりと把握する事が何
- とんと青年部として、災害時に何か出来るのか、議題の一つとして考えたいのかと思われました。

合同青年部「2020年旗開き」

2月2日有明そなエリアにて、当日は天気も良く最高のBBQ日和でした。

大勢でやるBBQはとても楽しく、普段コミュニケーションの取れない他の支部の方々とも食事を交えいろんな話しができて楽しいBBQでした。

午後からは防災学習施設に行き、案内係の説明を受け受付でタブレットを渡され、いざ防災体験の場所勉強会、最初に見た印象は「わあ〜」って感じでした。

案内係の説明のもと、タブレット操作で防災体験をしましたが、ちょっと自分には分かりづらい部分があり聞くにも聞けない状態だったので、気づいたら周りに誰も居ない状態でした。(涙)

このような事が他の人にも起きないように防災体験で学んだ事をいかし、これからの世代の組合員に受け継いで行きたいと思います。

今回の防災体験は自分にとって収穫の1日でした

。

北支部 結城良一

令和2年2月2日

令和2年. 2月2日
とりました。

有明そなエリア

2月2日有明そなエリアにてバーベキュー&防災体験に参加した。当日は天候にも恵まれ、気温もこの時期にしては暖かく最高のバーベキュー日和となった。
約50名弱の組合員が参加し、おおいに盛り上がった。
昼過ぎから、防災体験を行なった。20名ずつ2班に分かれて施設に入り、タブレットを用いて実際に被災した現場を周りながらクイズに答えて行くものだった。
防災体験を終えて感じた事は、実際に被災した場所にいたら、戸惑うばかりで何も出来ないのではないか、そう感じた。今回の経験を他の組合員にも伝え、またこのような企画があれば参加を促して行きたいと思っています。

北支部 小島秀之

防災体験

No.

Date

2月2日 防災体験学習施設そなエリア東京にて防災体験をしました。

1人1つずつ配られたタブレットを手に

地震が発生し緊急停止したと想定されたエレベーターを抜けると
ジオラマによって、非常にリアルに再現された被災地の町がありました。

そこには倒壊したビルや放置された車、火の手が上がり燃えている家があり、
絶え間なく聞こえる緊急地震速報の音が「3, 11」を思い出させました。

このエリアでは、タブレットを使い、町を巡って

要所要所にある手掛かりを元に解いていくクイズ体験を行っており、
被災した建物内部の様子や液状化によって起こるマンホールの蓋上げが
ARで体験できました。

その体験の中で、地震対策をしていない部屋の内部を見て、
地震対策の重要性を改めて感じました。

クイズ体験を終えて先に進むと展示ブースがありました。

災害発生時、一時的に避難する「避難場所」、

災害によって生活する場が失われた場合滞りする「避難所」、などを一部再現しており、

災害時、ベンチの腰掛け部分を取り外す事でコンロにも、トイレにもなる災害用ベンチなど、
初めて知る事が多く、大変勉強になりました。

様々な事を学べた、非常に有意義な時間を過ごせて良かったと思います。

起きてからでは遅い。備えておく事の重要性を再確認し、
備えて行きたいと思います。

令和2年2月2日 福山 慎二

「旗開き」 BBQ

No. 1

Date

本部に集合し、推葉氏を含め我々8人が
談笑してバスが到着。

荷物をピックアップすると一気に揚々と出発。

車内では自己紹介など一通り終えると
早くも目的地へ。

絶好のBBQシーズンとはいい過言だが
澄みきった青空、吹き抜ける風には
暑すぎた夏の名残は完全に消えていたすら心地よい。

初めの頃は先輩が主導するBBQだったが
缶ビールを1,2本飲み干すとみんなテキパキ
行動するようになった。

職業がらだろ、食事中でも集めたゴミをすばやく
分別しながら楽しんでる。

組合員の一人が「焼きそばを料理するぞ!!」
というとすぐに輪ができた。

普段寡黙な〇〇など「こっちはこいよ」とハトにえさを
強面な〇〇はみんなに肉をサーブして終始笑顔だ。
〇〇は各テーブルにはしごする程ソラックスしてる。

・住民などからの心ないクレーム ・嫌でも耳に入ってくる自分の中傷。
・交通渋滞 ・社内でのトラブル。
・猛暑での長びく長スボン、丸メット … 等々あげればキリがない。

ストレス社会に身をおいてる我々でもこのイベントはとて
意義があると思う。

まとめ

労いの言葉を一つでも多く頂けるよう「青年部」
の旗をかかげ地域貢献に携わりたい。

No. _____
Date _____

防災施設「体験学習」

2

この施設は東京直下地震の防災体験できる学習ツアーだ。

スタート前に一人一人にタブレットが渡され組合員20人で参加した。

室内が暗くところもリアリティーがある。地震で倒壊した街を再現しており防災知識を学べるツアーらしい。

体験中、「3.11」を思い出したのは私だけではないだろう。

肝心の携帯はつながらないし、社に帰ると故・飯尾専務の「日報など明日でいいから今すぐ家族のもとに帰りなさい」という一言が恐怖感をさらに増大させてことを鮮明に記憶している。

話をもちすと、身の回りにあるもので災害を乗り越える知恵があつた、とあり、どう行動したらよいかを我々は夫有しあえたはずだ。

体験したことでない方はぜひ、足を運んでほしい。

最後に...
発見あり、驚きあり、笑顔あり
清々しい一日となりました。

相原義男

2020年2月2日（日）

合同青年部「震災体験学習」を終えて

北支部 青年部

森 嘉一

本日は有明にある「そなエリア東京」において、合同青年部「旗開き」と震災体験学習を行いました。

施設では、東京直下型地震が起こった場合の避難・救助の仕方や周りの人達と助け合いの精神などを学びました。そこで衝撃的だったのは、震災後72時間は自力で生き延びなくてはならない等、普段テレビのニュース等に出ない情報でした。政府の震災時の対策が、そんなにも時間がかかると学んだので、さっそく家族と話し合い備蓄等の防災対策をとることにしました。そして、子供達には地震時には津波も警戒しなくてはならないので、川や海に近づかないことや高台に避難することも合わせて伝えることが出来ました。

本日の学習や先日の「台風被害ボランティア」で沢山のことを体験したので、普段から防災意識を持ち有事の際は、適切な行動が出来るように普段から心がけていきたいです。